

2024年度 事業計画（案）

施設名 身体障害者自立体験ホーム なかまっち

1 利用計画数

事業名： 自立体験室事業（一般入居）	定員：3人	実人数：5人	延人数：1095人
事業名： 自立体験室事業（短期入居）	定員：2人	実人数：10人	延人数：260人
事業名： 短期入所事業	定員：2人	実人数：100人	延人数：350人
事業名： 短期入所事業（緊急利用）	定員：1人	実人数：20人	延人数：40人
事業名： 日中ショートステイ事業	定員：1人	実人数：35人	延人数：280人

2 事業実施計画

(1) 活動・支援の内容

概要

- ① 自立体験室事業（一般入居・短期入居）：世田谷区指定管理事業（世田谷区独自事業）
18歳以上かつ、区内に3年以上居住し、地域での生活を目指す身体障害のある方を対象として、一人ひとりの適性や目標、利用期間に応じた地域移行プログラムを提供すると共に、退所後の地域生活が円滑に行えるよう支援チーム作りを行う。
- ② 短期入所事業（緊急利用含む）：世田谷区指定管理事業（障害福祉サービス事業）
区内に居住し、身体障害者手帳及び障害福祉サービス受給者証を持つ65歳未満の方を対象として、本人の体験や家族のレスパイトのため、3泊4日を上限とした宿泊利用と、それに伴う介助を行う。また、国や世田谷区の推進する「地域生活支援拠点」として、本人や家族等に緊急の事由が起きた際には、緊急短期入所として受け入れを行う。
- ③ 日中ショートステイ事業：なかまっち自主事業
短期入所に準じたサービスを日帰りで提供する。

(2) 地域交流

- ① 地域住民との交流・連携
ホームページを用いた情報発信を積極的に行うほか、「まどカフェ」を定期的に開催し、地域住民を巻き込みながら、利用者とのつながりを生み出す。
- ② 関係地域機関との連携・交流
自立体験室プログラムにおいて、世田谷を中心とした地域生活に関する各種社会資源との結びつきを強めつつ、利用者と共に関係性を構築する。また、自立支援協議会や玉川支援ねっとなどへの参加を通じて、地域の諸機関とのさらなる連携を図っていく。

(3) 家族、関係機関との連携等

- ① 本人・家族からの情報収集
支援記録に基づき、次回利用に備えて必要な情報を利用者・家族から収集する。また利用者の新たなニーズや支援者の気づきを中心に、情報ファイルの更新を随時行う。
- ② ケアマネジメントを基盤とした連携構築
自立体験室（一般入居・短期入居）においてはモニタリングを定期的に行い、利用者や家族のニーズを支援計画に柔軟に反映させると共に、支援者会議やカンファレンスを定期的で開催することで、効果的に支援プランの検討と評価が行えるようにする。
- ③ 医療的ケアへの理解促進
現在の利用者が今後どのような医療的ケアが必要になるかを想定し、嘱託医や法人他施設のナースと検討を行う。

(4) ボランティアや実習生の受入れ

まどカフェにおいてボランティアの導入を図るほか、見学者に関しては随時対応を行う。

(5) 危機管理

① 感染症対策

マニュアルに基づき、館内の定期消毒や感染防護措置、対応訓練を実施し、新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス等への対策を行う。

② 防災・減災計画

BCP（事業継続計画）に基づき、定期的な防災備品管理を行いながら、災害備蓄を継続的に行っていくほか、年2回の防災訓練を行い、避難順路確認や安全確認動作の定着を図る。

③ 防犯計画

日常的な館内の見回りや声掛けと共に、各種防犯設備の使用法等を定期的に確認することで、有事での迅速な活用につなげる。

④ 情報共有

管理者が専用アプリにて現場と迅速に連絡を取ることができるようにすると共に、グループウェアを用いて、法人事務局とも情報共有を迅速に行う。

(6) 職員研修の実施

① 支援業務における専門性の習得

各福祉士国家試験取得はもとより、医療的ケアや相談支援など、専門知識を得るための研修機会を確保できるようにする。

② 幅広い研修受講体制の構築と共有

ケアワークからケースワークに至る横断的な知見を得るため、「障害」「介護」「制度」「地域」の各分野での研修を受講すると共に支援会議にて職員間で共有し、チームとしての対応力を高める。

③ キャリアパスに基づいた育成・研修

法人キャリアパスに基づき、各職層において必要とされる事項を明確にした上で育成や研修を進め、組織運営がスムーズに行えるようにする。

④ 福祉動向・施策・支援などの情報蓄積

「支援情報ライブラリー」に国内・地域での各種支援情報を引き続き蓄積し、支援計画策定において活用すると共に、オープンスペースにて書籍や情報を閲覧できるようにする。

3 重点目標と取り組み

① 自立体験室プログラムの更なる整備と支援ノウハウの蓄積

自立体験室（一般入居・短期入居）においては、今年度より全ての利用者が個別支援計画に基づいた新プログラムに移行することから、非常勤職員の新規採用を通して支援体制を拡充する。また、支援結果を「月次シート」「ストレングスマップ」「アセスメントシート」等に反映させ、支援の振り返りと地域移行プログラムのノウハウ蓄積を図る。

② 短期入所・日中ショートステイにおける支援力向上

マンツーマンでの個別支援を提供する中で、介護職員への負担を軽減するため、福祉用具の導入や使用促進を図る。また、ウェブ研修の活用とディスカッションを実践し、介護職員の専門性向上とスキルアップを図り、利用者が安心して過ごすことができる支援を実施できるようにする。

③ 事業拡張に伴う受け入れ環境の創出

自立体験室事業の稼働率増に伴い、館内を最大限活用しながらの運営が必要となるため、談話室等を利用スペースとしても活用できるような環境整備を行う。また、和室におけるリフト使用ニーズもあることから、畳の改修を含めたリフト移設を検討する。